

## 春岡村の伝説

### ～このあたりにもいる ハクビシン アライグマ その3～

《アライグマやハクビシンが四方八方に飛び散った話》

アーバン周辺の木造の農家の屋根裏には、ネズミはもとより、ハクビシンやアライグマも棲んでいるそうです。夜中になると、家の柱をガリガリ音を立てて登り、屋根裏をドタバタドタバタ行ったり来たりするので、一人暮らしのおばあさんなどは、怖くて怖くて、夜は近くに住む娘の家で寝るのだとあります。昨年、丸ヶ崎新田の農家が母屋を建て替えることになりました。昭和40年代に建てた木造二階建ての家を取り壊したところ、アライグマやハクビシンが四方八方に飛び散ったそうです。さらに、タヌキやネズミ、ヘビまでも。話しかけてくれたのは近所の人で、四方八方に飛び散ったというのはおもしろおかしく話を盛った結果だったようで、家主は確かにアライグマはいたけどなあ、飛び出したのは女だよ、ととぼけるので、その女の人たちにはシッポが生えていて、そして二度と戻ってきませんでした、じゃないのとツッコミたくなりました。昔のキツネに化かされた話なども、こんなふうに面白おかしく話すうちに伝説になっていったのでしょうか。

ハクビシンやアライグマは畠で悪さをするので、罠をしかけますが、ネズミのようにはなかなかかかるものでもないそうです。ところで、ネズミ捕りにかかったネズミはどうしていたのかというと、かつては仕掛けごと裏の綾瀬川に流したそうです。最近は巨大なゴキブリホイホイのような仕掛けを使いますが、かかったネズミをどうしたらよいのか市に問い合わせたところ、仕掛けごと燃えるゴミの日に出すのだそうです。火葬ということになるのでしょうか？

ネズミといえば、日が暮れるまで畠仕事をしていたら、深作のおじさんが「早く帰らないとネズミにひかれるよ」と言ってきました。「ネズミに轢かれる？」意味が分かりません。実家の母に話すと、昔は夜寝ている赤ちゃんの耳をネズミがかじっていくこともあったそうで、小さくて可愛い赤ちゃん、気を付けないと屋根裏のネズミの巣に曳いていかれるから早くお帰り、というような意味のようです。

今は小動物の被害ですんでいますが、近年利根川の向こう側の渡良瀬遊水地にイノシシが出るそうで、そのうち、橋を渡るか、泳ぎが得意なので川を渡って、加須あたりにくるのは時間の問題と思われます。そしたら、猪突猛進、あっという間にこのあたりにもイノシシが現れるようになるに違いありません。 (東三番街 平山由喜)



AIに「ハクビシンとネズミとイノシシの絵を描いて」と入力して出来た画像